

国際セミナー「世界とともに歩む TOHOKU のまちづくり
-世界と取り組み、世界へ広がるスマートコミュニティ-」
鈴木副大臣による外務省挨拶
(2月28日(木) 15:25-15:30、7階北国際会議場)

外務副大臣の鈴木俊一でございます。本日は、国際セミナー「世界とともに歩む東北（TOHOKU）のまちづくり」に御参加いただき、有り難うございます。御多忙の中お越しくございました、在京大使館、国際機関、民間企業を含む復興関係者の皆様に、心より御礼申し上げます。

私自身、岩手県を故郷（ふるさと）にもつ、被災地復興の当事者の一人であります。かつて内閣総理大臣を務めました父・鈴木善幸は、1933年に岩手県で大津波に遭い、その惨状を目にしました。それがきっかけで、政治の世界を志し、故郷の復興に心血を注いできました。私も、父と同じく、自然への畏怖の念と、再生への強い想いを持ち、故郷の復興に尽力してまいりました。

こうした中、今や自然と共存しながらより強靱なまちづくりを可能とする知見・技術が世界中で発展しつつあり、その世界の英知を活かしながら復興に取り組めることが重要になっています。また、被災地復興を通じて得られた教訓や成果を外に向かって発信していくことで、世界の他の地域における未来のまちづくりにも貢献していくという効果も大切であると思います。

そのような思いのもと、昨日、来日中のファン・デル・フーフェン国際エネルギー機関（^{アイ・イー・エー}IEA）事務局長とお会いしました。また、本年1月に開催された国際再生可能エネルギー機関（^{アイリリーナ}IRENA）総会でも、日本政府代表から、同様の協力を呼びかけました。更に、本日御参集くださいました各国大使館の皆様も、それぞれ、被災地においてまちづくりにつながるような活動を行われています。

本セミナーにおいても、^{アイ・イー・エー} I E A、^{アイリーナ} I R E N Aを始め国内外の専門家、被災地関係者、諸外国により、被災地におけるまちづくりの取組へ御助言いただき、また、その取組状況や成果の共有・発信について議論していただく予定です。これまでの前半部分では、岩手県宮古市の名越副市長の基調講演とパネルディスカッションが行われ、活発な議論が行われたと聞きました。

「まちづくり」というテーマは、被災地をはじめとする日本に限られた話ではありません。国連によれば、途上国を中心とする世界の都市人口は、2005年に全人口の50%、2030年には60%を越えるとの予想であり、環境や雇用にどのように対処していくかという都市問題が今後ますます重要になっています。

リオ+20において、日本は、①環境未来都市の世界への普及、②世界のグリーン経済への移行、③強靱な社会づくりの3本柱を中心とする「緑の未来」イニシアティブを発表し、多くの参加国から評価をいただきました。第1の柱について、特に、持続可能なまちづくりの推進に向けて成功事例を世界的に発信していくとともに、諸外国との間で理解と協力を推進していくことを目指しています。

本日のセミナーでは、その第一歩として、被災地や世界の都市が直面する持続可能なまちづくりという共通の課題を、国際社会が連携してどのように取り組んで行くべきかについても、皆様から様々な御提案を頂戴できれば幸いです。

最後に、本セミナーの議論が実りあるものとなるよう心から祈念するとともに、外務省としても、引き続き、被災地復興と国際社会への発信・貢献を支援していくことお約束し、私からの御挨拶とさせていただきます。

以上